

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

教職員一同、皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。

保護者の皆様ならびにご関係の皆様におかれましては、今日までさまざまなご心配やご苦勞を重ねてこられたことと存じます。心よりお慶び申し上げます。

また、本日の入学式にご臨席賜りましたご来賓の皆様、公私ともにご多用の中、ご参列いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

新入生の皆さん、今日から皆さんは寝屋川高校定時制の課程こと「ねやてい」の一員です。皆さんがいま、この場にいるのは、自らの意志で新しい一歩を踏み出した証だと思います。私はその勇気に心から拍手を送りたいと思います。

さて、今日から高校生活が始まるわけですが、皆さんの今の気持ちはどうでしょう？

「楽しみで仕方ない！」という人もいるでしょう、また「何が始まるのか不安でいっぱい……」という人もいるかもしれませんし、「まあ、なるようになるさ」と思っている人もいるでしょう。

ただ、どんな気持ちであれ、これだけは覚えておいてください。

ここは、皆さんが『一人じゃない』と思える場所です。

高校生活は、時に楽しく、時にしんどいものです。うまくいかないこともあるでしょう。

「なぜこんなことになるんだ！」とか、「人間関係ってこんなに難しかったっけ？」などと思うこともあるかもしれません。

そんなとき、どうすればいいか。

答えは「助けを求めろ」ことです。

人間、一人でできることには限りがあります。

困ったときに「ちょっと助けて」と言えるのは、むしろ強さの証です。

しかし、「助けを求めろ」というのは、思った以上に難しいことだと思います。

「こんなことで相談してもいいのかな？」

「迷惑なんじゃないかな？」

と、つい口を閉ざしてしまうこともあるでしょう。

ですが、それはとてももったいないことだと思います。

例えば、真っ暗な夜道を歩いていたとします。当然、暗くて足元はよく見えません。

このまま歩いていたら、どこかで転んでしまうかもしれません。

ですが、そこに灯があればどうでしょう？周りを照らし、道がハッキリと見えますよね。

「助けを求める」というのは、その灯のスイッチを入れるようなものだと思ってください。

誰かに「ちょっと手を貸して」と言うだけで、今まで見えなかった道が見えてきます。

それだけで、前に進みやすくなるのです。

「ねやてい」には、そんな灯となる先生や仲間がいます。

だから、困ったときは迷わずスイッチを入れてください。

そしてもうひとつ。

「助けを求められる人」は、いずれ「助ける側」にもなれるものです。

今は頼ることが多くても構いませんが、いつか「自分が誰かの力になろう」と思うようになってくれることを願っています。そうした支え合いの中でこそ、私たちはより強くなり、確かな成長を遂げることができると思います。

高校生活は、長いようで、あっという間です。

ですが、「ねやてい」での生活は、決して一人で乗り越えるものではありません。

ときには人を頼り、ときには誰かの支えになりながら、皆さんらしい一歩を踏み出してください。

これから始まる高校生活が、皆さんにとって充実したものになることを願って、式辞といたします。

令和七年四月七日

大阪府立寝屋川高等学校

准校長 服部 有晋